

SIAF についてのモヤモヤしたアレ

第 2 回座談会レポート

作成者：主催 高橋弘子

開催日時：平成 28 年 8 月 9 日 19:00～21:15
内容：第 2 回イベント 座談会 in OYOYO（札幌市）
議題：『まずは札幌国際芸術祭(SIAF)についてモヤモヤしていることを言い尽くしてみよう！』(平日版)
参加者：9 名（一般参加者 7 名、主催側 2 名）

<一般参加者内訳>

- ・居住地域：札幌市内 6 名、札幌市外 1 名
- ・芸術関連活動：アマチュア作家 1 名、プロ作家 1 名、鑑賞のみ 2 名、その他 3 名
（「その他」の内訳：パフォーマー 1 名、未記入 2 名）
- ・年代：30 代 1 名、40 代 4 名、50 代 2 名

<芸術祭参加状況（SIAF2014）>

「全会場見に行った。ステージ一つ見た。最終日に登壇させられて少し話をした」「ミーティングに 2 回参加」「みました」「『とくいの銀行』に登録」「とくいの銀行参加」

<芸術祭参加状況（SIAF2017）>

「全会場見に行くつもり」「1 回目のパブリックミーティングで発言をかます（笑）」

座談会については前回同様に事前の参加受付を行っておらず、当日直接来場してもらった。SIAF2014 において全会場回った人から、芸術祭があったこと・あることを全く知らない人、そもそも現代芸術に批判的な人、情報収集のため様子を見に来た人など様々な顔ぶれとなった。座談会の情報は SNS で得た人ばかりとなった。

座談会では話す内容を定めず、自由に話し合ってもらった。内容は下記の通り。

（1）SIAF2014

SIAF での出展作品は現代芸術が中心だが、現代芸術と鑑賞する市民の間の距離はまだ遠い印象がある。また、「札幌でアートといえばこれで全て、ということなのだろうか？」という疑問も発せられた。市民が直接参加出来る「とくいの銀行」に参加したり、出展作品と自身の活動とのつながりを感じられたなど、「体験した」ということはやはり強く気持ちに残っている様子だった。例えば友人などからの実体験に触れるところからであれば芸術祭に親しみをもちやすいという人は多い。しかしそれを発信する力、見つける力はまだ弱い、あるいはマッチングしていない。

○鑑賞・参加等

- ・前は全会場見ている。
- ・SIAF2014 もいくつか見た。何らかの説明会（？）に参加したが、よく分からなかった。
- ・普段から札幌で絵を描く活動をしているが、現代芸術と関わりのないフィールドで、周りの人も芸術祭に対して「他人事」というスタンスが多かった。盛り上がっているところは盛り上がっており、温度差が激しく感じた。
- ・地下歩行空間の現代芸術はよく分からなかった。「長いテキストを読んでコンセプトやプロセスを理解しないと楽しめないのだろうか」と思うと遠く感じた。
- ・「とくいの銀行」に登録し、他の人の「とくい」を引き出して市内の川があるところでイベントを行った。親子連れなどが参加してくれた。このイベントのため、ちょくちょく資料館へは通ったが、他の展示には行きそびれた。
- ・「とくいの銀行」の最終日には泣いている人もおり、とても盛り上がっている様子が見られた。
- ・「とくいの銀行」など資料館でやっていることが何なのかよく分からなくて最終日まで行かなかったが、行って

見てみたら楽しそうだった。

- ・「とくい」の量が膨大だったこと、「いつ何をやる」という情報はほとんど会場に貼り出されている案内で知るアナログなシステムだったため、情報を探すのが大変だった。
- ・各人が登録した「とくい」のマッチングをしてくれるとか、マッチングの工夫があるのかと思ったがそれはなかった。ただ並べるだけでは単なる掲示板？ 様々なモチベーションの市民がいると思うが、こうしたシステムを積極的に使ってコラボなどが出来る人は、芸術祭や「とくいの銀行」がなくてもコラボ出来るのでは。
- ・「とくいの銀行」のおかげで知り合えて今でも交流がある人もいる。
- ・現代芸術に批判的なスタンスでいるので、「札幌でそんな芸術祭をやるなら」とだいたい会場を見たが、2017については「もういいかな」と思っている。
 - ・現代芸術中心にするなら「札幌現代芸術祭」でよいのでは。「アートってこれで全部なの？」と思ってしまう。
 - 「現代芸術が最先端であとは古い」と言われているようで不快に感じる。
 - SIAF で取り上げられているものは全て現代芸術なのか。アートに詳しくないとよく分からない。コンセプトありきなのが現代芸術？
- ・札幌のアーティストが集まる場所がないと感じた。少なくとも、そういったつながりが生まれたという感触がない。
- ・ SIAF2014 の前から友人に教えられて清華亭に何度か行っていた。毛利悠子さんの展示によって注目を浴びたのは嬉しい。札幌市民でも清華亭を初めて知った、訪れたという人が大半だったのでは。
- ・ 山川冬樹さんが石狩川から創成川をずっとカヌーであがって、最終的にテレビ塔まで行った。地元の人間なのにその着眼点に気付かなかったことへの悔しさのようなものもある。
 - 座談会参加者の一人は SIAF2014 以前に石狩の浜や創成川のゼロポイントで踊ることでそこをつなぐというのをやったことがある。「自分と同じことを考えてやっている人がいる！」ということが凄く励みになった。SIAF2014 最終日に、カヌーなど地下歩行空間に展示された作品を解体し、そのパーツを鑑賞者に分けてくれていた。そこで頂いた物をその後に地下歩行空間で踊る時に着用した。自分の中で、「ぐるっとつながった」という実感が湧いた。
 - この話を芸術祭界隈の人にはまだ伝えられていない。「つながった実例」などはもっと広めてよいのでは。
- ・現在でも残っている作品は資料館前の『一石を投じる』という作品名の石。ただの石なので色々なものに見立てることが出来ると思うが、ストーリーがないのではどうしようもない。神社のご神体も見た目は単なる石だが、ストーリーがあるのできちんと祀られている。
 - 勝手にストーリーをつけてみては。それでコンテストをすとか。
 - 祭りには神が必要。
 - 先住民族文化が好きな人には、「二風谷から来た」というだけでものすごくストーリーを感じる。
 - 二風谷から運んで設置するまでのストーリーはあるのだが、そのストーリーが見た目から想像出来ない。
 - 石の愛好家にとってはなかなかの石らしい。素人には分からない、という部分が問題？
 - 札幌軟石だったらもっと分かりやすい。札幌で軟石や軟石を使った建物を取り上げて制作・展示などしている人も。「編集会議」(SIAF ラボ主催)でも取り上げられている。街中でも有名な倉庫が壊されている。もっと早く取り組みがあれば残っていたかも。勿体ない。

○広報・認知・発信

- ・札幌国際芸術祭って何？ 何で札幌？
- ・web サイトが見づらい。
- ・札幌の人はなかなか感想などを発信しない？
 - 個人的に SNS など「何をやってる」「どの会場で過ごしている」ということを書いていた人もおり、そうした友人の投稿が会場へ足を向けるきっかけになることも。
- ・前回の座談会においても SIAF2014 にボランティアで参加した人の実体験を聞いた。1,000 人超の登録があって数百人が活動した筈だが、身の回りにいないため、実体験を聞くことがなかった。良い経験をしたと強く実感している人もおり、そうした人の話を聞くと「SIAF もいいのかも」という気持ちになりやすい。そこがうまく

広がってつながるとよいのでは。

→様々な実体験、事例はどこかで誰かが拾って公開していたのだろうか？「サカナ通信」とか？

○金銭的側面

- ・経済効果はどうだったのか。経済主体でこういったものが動くという側面もあると思われる。
- ・市税投入が1億5,000万円～2億？ 企業のお金や収益が乗って5億くらいだったか
(※資料参照なしでの発言にて正確な数字は報告書参照されたい)
→あいちトリエンナーレは10倍の予算？
→札幌市として芸術祭にお金をかけたくないのであれば無理にやらなくてもよいのでは。今すでに色々ある文化芸術関係の企画（市民芸術祭など）にお金を出すのではダメなのか。→それでは外から人が来ない。
(芸術祭にお金のことで文句を言っている人が札幌に札幌市が9500万円払っていることに一言も文句を言わないのが素朴に疑問)

(2) SIAF2017

SIAF 自体が新しい祭でまだ地元に根付いていないこと、一般市民にとって現代芸術はまだあまり馴染みがないことは今回の座談会においても共通認識だったように思う。「何をやりたい」「何故それをやるか」「誰に向けてやるか」ということが今のところは伝わっていない。札幌として外部から呼び寄せるものがあるとともに、札幌として発信するものは何かという点も話題になった。また、「こうした企画はどうか」というアイデアも多く出された。

○広報・認知

- ・パブリックミーティングは見えていない。あったことも知らない。
- ・仕事の内容と関わるので SIAF2017 に関心を持っている。「SIAF についてのモヤモヤしたアレ」についても SIAF について調べている過程で知った。
- ・「芸術祭ってなんだ？」とか「みんなでつくろう」といったテーマが中学校の学校祭みたい。
- ・新しい芸術祭なのでまた地域に根付いてはいない。
- ・これまでに発表されたプロジェクトの中ではメインビジュアルの部分が市民の参加出来る余地の一つ？
- ・普段ネット利用しているが SIAF の広告などは目に入らない。情報を得る手段はホームページにアクセスしたり SIAF の SNS をフォローすること？
- ・メインビジュアルが定まっていなかったから大きく告知していなかった？
- ・「SIAF」という略称が広まっていない。
→「SIAF」から札幌を連想できない。
→「SIAF」という単語で検索した時に海外の全く関係ないコンテンツ（外国の空軍？）もたくさん引かかる。
→「札幌国際芸術祭」で検索し公式アカウントで見る、のほうがよい？
→ SIAF2014 にも割と関わっていたが、会期終了後に札幌市資料館でのイベントに参加した時に初めて「SIAF」と呼ばれていることを知った。事務局側の人から「知らなかったんですか！？」と聞かれた。
→「関係者が“SIAF”と言うこと」に対して嫌悪感を持っている人も？「私は関係者」という内輪感。まだ関わりが浅い側からすると距離を置かれた印象を受ける。
- ・SIAF ラボの活動もあるのに広まっていないのが勿体ない。
- ・何をやりたい祭なのか。それをハッキリさせれば、「私はのれる」「のれない」がハッキリすると思うが、そこが分からない。
- ・どんな告知の仕方をしてキャッチ出来る人と出来ない人がいる。そこをフォローするのは無理があるので、それは諦めるよりほかないと思う。
- ・Twitter での情報発信においては公式アカウントからの発信は少ないのでは。非公式さん（(4)の項目で紹介す

る)のほうがたくさん情報を流している。

- ・アーティストがまだ10組しか発表されていない段階だとしても、その10組についての情報をローテーションで繰り返し流すことも出来る。そうすると、そこで引っかかって調べてみようとする人が増える確率は上がるのでは。

○距離感

- ・SIAFを作っている側の人たちとうっすらつながりを持つようになったことによってSIAFへの距離感も縮まった。とはいえ、そうした「中の人」たちを札幌の草の根アート界隈で見かけず、「住んでいる場所が違う」という印象。
- ・現代芸術そのものへの距離感。
- ・「芸術祭」というと「中央のアーティストが集まって…」という感じで「ずっと上のほう」のように感じている。それではいけないと思い、その間を埋めようとイベントを企画したことも。
- ・市内の作家に展示場所の提供などはあるのか。
 - 国際芸術祭の中では、札幌はかなり地元気に遣っているほう。前回は500m美術館に地元枠で10名以上の出展。ハコレンもあった。
 - (ハコレン：<http://sapporo-hacoren.com/about/>)
 - 地元枠で札幌のアーティストに出してもらうことはかえって札幌のアーティストに失礼なのでは。
 - 地元部門などでアーティストも普段関わらない人たちと関わって変わる部分もあるのでは。
- ・実際に地元の作家を起用したかどうかというより、地元の作家が芸術祭に対して距離感を持っているかどうか？

○SIAF2017 出展アーティスト

- ・全体的に凄く音楽寄り。「国際前衛音楽祭」？ 現代芸術のファンとは重ならない？
- ・パブリックミーティングで次々とアーティストが発表されても会場から「おお〜！」といった声上がる場面がなかった。アーティストによっては、一部のコアな音楽ファンに凄く刺さる？
- ・「一部のファンにささる」というアーティストが何人もいるのであれば、そのファンの人たちを集めて座談会をやって、その内容を発信するなどしては。「このアーティストがどんなことをするのか期待する」というのを、ファンの人たちであれば発言出来る。
- ・ほかの芸術祭と比較すると、アーティストの発表が足りない。ほかは50や100といったアーティスト数になる。
 - SIAF2017では現時点では10組が発表されている。
 - 次のアーティスト発表ではよりアートの人選がなされていないとさすがにバランスがとれないのでは。
 - 大友良英さんはパブリックミーティングにおいて「アート側に気を使っている」というような発言をされていた。
- ・札幌風味はない。札幌らしさはなくてもいいもの？

○SIAF2017に向けてあれこれ思うこと

- ・なにがしか関わりたいが、住んでいる場所が札幌から離れているのでそこがモヤモヤしている。
- ・税金を払っている立場として興味を持たざるをえない。
- ・表現者のためだけのものにするのか、それとも普段からアートに関わりたくない人も含めて巻き込んでいくのか？
 - 広く巻き込んで行く方向が良いのでは。
 - 札幌市民が楽しめることって？
- ・SIAF2014では「東京など中央のものを持ってきて作った」という印象。今回はどうなるのか期待。
- ・日本が好きな外国人の人たちは日本のアニメ、ゲームなどが好き。中には日本人よりマニアックな人も。サブカルを取り込むことで経済効果も生みやすくなるのでは。SIAF2017では間に合わないと思うが、将来的にそうしたところに取り組んでもいいと思う。
 - 例えば初音ミクなど、札幌から世界へ発信出来ているコンテンツもある。それだと「国際」というところにも「札幌」というところにも引っかかるのでは。 →商業色が強過ぎる？

→村上隆さんのフィギュアと、アニメファン所持のフィギュアを比較検証する展示などもどうか？

→ご当地キャラのようなものがいては？ イラストレーターのような人も活躍しやすい。量産していくとか。

- ・「アート分かっている・分かっていない」はともかく、見た目で引き寄せられるものを出す人がいい。SIAF2014 および今のところ発表されている SIAF2017 のアーティスト、プログラムを見ても絵画系は少ない。ビジュアル的に印象に残る作品は出るか。

→例えば『一石を投じる』(SIAF2014 出展作品の石。現在は資料館前に仮に設置されている)のような大きな石のようなものに着色するなどしてビジュアルのインパクトのあるものを作る？

→一般市民が作品の写真を撮って SNS で広める場合にも、見た目で「あっ！」と思える感じが重要。見た目だけで「あっ！」と思えるものはアートが分からなくても入りやすい。さらに、「知って見たらそんな意味があった」と知ると感慨深さも増すのでは。

→瀬戸内に行ったことがなくても直島の草間彌生作品の写真を思い浮かべることが出来るほど印象に残っていたりする。象徴的。

→それがそのまま街に残って、待ち合わせ場所になったりしても面白い。

○エリア

- ・パブリックミーティングで説明されていた「円山エリア」のくくり方について SNS で苦言を呈している人がいた。「円山」はどこからどこをさしている？

- ・パブリックミーティングで出ている写真の場所で何かするのか？ 場所はまだ決まっていないか？

→島義勇が登ったのは円山であるという説と三角山であるという説とある。以前は円山という説が有力だったので記念碑もあるが、あそこに登ると正面が南 9 条通なので違うのでは、というのが最近の説。

→「円山はアートが好きそうな人がいるから」という理由？

→地元の人よりも道外から来ている人のほうがリサーチがしっかりしている？ SIAF2014 のアーティストもメムのこと、清華亭のことなど詳しく調べていた。よそから来た人のほうが気がつくことがあり、札幌の姿を浮き彫りにすることが出来る側面がある。

○ミーティング

- ・芸術祭というものに否定的なスタンスだったが、「地場のものをどう活かすか」というミーティングにたまたま参加し、意識が変わった。今後につながっていきそうな話がたくさん出ていた。次の芸術祭にどう生きるのかは分からないが、いつか面白いことになりそう。次回のミーティングも参加しようと思っている。

○公募

- ・やっていること自体が画期的。普通やっていない。

- ・応募しようかと思ったが用意する書類（企画提案書、収支計画書、プレゼンパネルがいずれも PDF で必要）の作成がハードルが高く断念した。また、準備する期間を長く取れなかったせいもあるが、「実現可能な場所で…それを自分で…」など条件を考えると難しかった。

→小学生などでも良いアイデアを持っていた子供がいるのではないだろうか？

- ・「実績があるか」ということになる、そうした経験のない市民は太刀打ち出来ない？

→「アイデア募集」ではなく「実現出来るもの募集」なので。コンペのようなイメージ？

- ・「市民から公募しましたよ」というアリバイ作りの可能性？ 選ばれた人はプロっぽい？

→初めて公募を実施するので、開催側としても「冒険出来ない」という思いがあるのかも。

→そこが最初に「公募がある」と聞いた時に感じた印象と違う部分とを感じる人も。

- ・「子供からアイデアを集める」というのをやってもそれはそれで面白いのでは。そのアイデアをプロの人と企画として育てていく。その過程も作品として展示・発表出来るのでは。教育としての要素が必要だと思う。

- ・妖怪のプロジェクト（公益財団法人北海道演劇財団企画『中島公園百物語』のこと）は子供も入り込みやすそう。

- ・公募は「自分でやるもの」だが、他の団体（学校など）との絡みもあってよいと思う。

※パブリックミーティングで説明されたところによると、選考基準は「僕ら（開催側）と一緒にやったら何が起こるか?」「すでにある基準に沿ったものは（それはそれでいいが）やめておいた」「事務局のマンパワーにも限界があるので、事務局が丁寧に対応できる範囲に絞った」ということだった。

○さっぽろ八月祭（2016年はSIAF2017プレイベントとして開催。2016年8月5日、6日に北3条広場で開催）

- ・八月祭は結構好き。先日の八月祭は結構盛り上がっていた。
 - ・プレイベントというところがあまり広がってない。チラシ等にもっと大きく書いては。ちょっとずつ広げていく方向か。
 - ・「オーケストラ SAPPORO!」という企画もあり、誰でも参加可能。楽器も、音の出るものなら鍋でも何でもよい。普通の指揮ではなく、決まった合図で音を出すので、子供が指揮をする場面もあった。音楽をしっかりとやっている人も入ってくるので、そうしたところからつながりが広がれば。
→音楽の分野以外でもつながりが広がればいい。
- （さっぽろ八月祭：<http://www.8fes.com/>）
（オーケストラ SAPPORO!：<http://www.8fes.com/%E3%82%AA%E3%83%BC%E3%82%B1%E3%82%B9%E3%83%88%E3%83%A9sapporo/>）

○さっぽろコレクティブ・オーケストラ

- ・子供が参加出来るプロジェクト。すでにワークショップも始まっている。子供が誰でも参加出来て、特に音楽やアートの経験がなくても楽しめるのはこれか。
- （さっぽろコレクティブオーケストラ：<http://siaf.jp/projects/collective>）

○アートカフェ in 資料館

- ・SIAF2014のあと、SIAF2014から発生した「アートカフェ in 資料館」に参加するようになった。誰でも可能ということで一日店長（議長のようなもの）もやったことがある。
- （アートカフェ in 資料館：<http://artcafe-sapporo.weebly.com/>）

○ゲストディレクター

- ・座談会途中にて、座談会会場お近くにいらしたゲストディレクター大友良英さんお立ち寄りいただいた。会話の一部については最後に記述する。

（3）芸術祭

国内、海外であまたに開催される芸術祭や、SIAF2014から2017までも含めた話題にも触れられた。今回の参加者が知り得る限りではSIAFは元々は地元アーティスト側からの働きかけで始まっているとのこと。その点、行政主導で始まったものよりも市民にとって親しみやすいのではという意見が出た。

○芸術祭全般においてあれこれ思うこと

- ・そもそも「芸術祭」というものが、「市民も参加する」ではなく「観にいくもの」なのでは。「市民参加」というのが珍しいのではないか。
- ・芸術祭がどういうものであるのかという概念がなくピンとこない。
- ・日本国内だけでこんなに要るのか？ お金を1カ所に集めて大きいものをやってはダメか。
- ・ヴェネツィアビエンナーレなどになると世界中のアート好きが集まるので、経済効果もある。

○開催の意義・動機 (SIAF2014、2017)

- ・芸術祭を一番やりたいのは「札幌市」だろうから、「そこにコミットしたい人はするんだろうけど…」という印象。
- ・札幌市としては観光客誘致がしたい？
- ・どう楽しむか？ 蚊帳の外の人間を誘い込む余地。 → ゆくゆくは、「どう生きやすくするか」。
- ・海外のバイヤーやギャラリストが芸術祭規模のイベントでないと札幌に来てくれない？
- ・国際芸術祭があまたにある中で、「札幌国際芸術祭はコレだ！」といえるものがあるか（10 年ほど前の頃では日本国内でこんなに増えるとは SIAF 開催側も思っていなかったと思う）。
- ・芸術祭を開催することで芸術に興味を持ってくれる人が増えれば。アート好きの内輪だけで楽しんでいても仕方がない。観る・楽しむ人が増えることの意義。
→ 大友良英さんは「広げる」ことに関しては日本でも指折り。期待できるのでは。
- ・「芸術祭が国内・国外であれこれあるので、札幌でもやってみましょう」ということか。
- ・発端になった方が札幌におり、ずっと「札幌で国際芸術祭をやりたい」と言っていた。数年前に亡くなったが、その方の遺志を継いだ方々が働きかけて開催の運びとなった。始まりは札幌のアート界隈。芸術祭のような自主企画も過去に開催している。
→ 「行政そのものではなく地元の人の呼びかけが発端」というのは、市民が親しみをもちやすいポイントか。
→ 外部の人への PR ポイントにはならない。
- ・地元の人が「何それ？」というものが残っていくだろうか。
→ 「自分たちがブランドになってしまえ」という気持ちが必要では？
- ・単に地元の人間が頑張っているというだけでは質が担保されない。海外のエライアーティストを呼ぶには札幌はお金がない。

(4) 市民レベルの活動

SIAF の周辺における市民の活動にも話題が及んだ。情報発信および各種イベント類への参加の多い「非公式さん」はある程度 SIAF の情報に触れている人の間では名物的存在と言ってよいのではないだろうか。当企画「SIAF についてのモヤモヤしたアレ」の活動についても提案をいただいた。

○非公式さん (札幌国際芸術祭 2014 → 2017 非公式 @SIAF_HACK)

- ・SIAF2014 の時から Twitter などでも SIAF を支援。公式アカウント以上に情報を配信してくれる。イベント情報などもまめに流してくれるので情報収集や確認の際に公式アカウントよりも頼りになる。いつ寝ているのかというくらいの活動量。

○SIAF についてのモヤモヤしたアレ

- ・自分の身の回りでモヤモヤを持っている人がいても、それを乗り越える手だてをなかなか見かけない。
- ・こうした場が出る意見などは、SIAF 関連のミーティングなどで実際に動いている人たちに向けてぶつけるのがよいのではないか。
- ・自動ツイートなどで毎日や 1 時間おきなど、情報をもっとどんどん流しては。#札幌国際芸術祭 のハッシュタグをつけて、こうした座談会で話していることや SIAF について思っていることをどんどん流してもいい。
- ・座談会の参加票に「モヤモヤしていること」を自由に記載する欄がある。こうしたところを書いてある言葉を SNS で垂れ流すことも出来るのでは。
→ 出来るかたちでやれることを。
- ・この企画もある意味、ひとつの芸術祭の楽しみ方。

○札幌のアート界限

- ・札幌で現代芸術をやっている人たちにも割と内輪感を感じている。何かきっかけがあれば。
→現代芸術の人たちとどうやって交流をとったらいいのだろう？ と全く想像つかなかった。
- ・札幌の中では「草の根」「公募展」「現代芸術」でざっくり分かれているように感じられる。「違う人種」感？
交流することはないのだろうか。
→個人レベルの交流は部分的にある。

（５）最後に

座談会としては締めた後だったが、参加者の方が「モヤモヤしてるっていうことは、みんな考えてるということ」と仰った。主催高橋もその通りと思う。本当の無関心はどうにもならないし、どうにかする必要のないものだが、何かへのモヤモヤは、(SIAF へ向けた方向でなくても) 良い方向へ転換するか、別のものを生む原動力となると期待している。

前回のレポートにも書いたとおり、「こうした意見の交換をいかに次に活かすか」という点が「SIAF についてのモヤモヤしたアレ」においても重要な課題となる。「芸術祭にどうつなげていくか」ということと、「札幌（道内も？）のアート界限にどうつなげていけるのか」というところにもつなげたい。

最後に、ご多忙のなか座談会へお立ち寄りいただいたゲストディレクターの大友良英さんに、この場を借り、改めて感謝申し上げる。「SIAF についてのモヤモヤしたアレ」の Twitter アカウントがほぼ出来たばかりの頃から把握されていたとのこと。早い段階からバレておりお恥ずかしい。良い活動としていきたい。

平成 28 年 8 月 17 日

高橋弘子

<追記>

主催の反省点として、ファシリテーターと書記は別のものが行い、どちらかに専念したほうがよいと思った。また、前回の座談会で出た話題や、過去にホームページにアップした自分のモヤモヤなどを今回の座談会でも話題として提供出来るよう準備すべきだった。